

フリーランス塾というギルド的コミュニティ

▼入塾のきっかけ

フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動し7年目となったときに耳に入った「フリーランス塾」立ち上げの話題。ふとまわりを見渡してみると、法人の代表やサラリーマンという属性の方が多い中、フリーで活動している人が意外に少ない事に気がつきました。

“他業界でフリーランスで活躍しているのはどのような人なのか？”

“他のフリーランスはどのようにして戦っているのか？”

それを知り、自身の仕事に活かすためにフリーランス塾に入りたいと考え入塾しました。

▼想像を超えるメンバー

晴れてフリーランス塾の一員になることができ、メンバーとの出会い。“フリーランス”と聞くと、僕の中のイメージは「デザイナー」「イラストレーター」「カメラマン」といったクリエイティブな業種が多いと感じていました。

しかし、実際に出会えたメンバーは主宰である田中先生をはじめ士業の方や、世界的に有名な美術館のガイドさん、本屋さんや絵本の翻訳をされてる方、歌舞伎の音声ガイドをされていた方、などなど想像を超えるユニークですばらしい面々！



▼フリーランス塾メンバーのつながり

実際にフリーランス塾がスタートするとコロナ禍前は月に1回の都内での勉強会があり、その後はWEB上でのZoom会や各メンバーの勉強会などが開催されつつfacebook内のグループでコミュニケーションをとる形ですすんでいきます。フリーランス塾結成当初に田中先生がおっしゃっていたことが印象的で、それは「この集まりはギルドのようなものだ」と。ギルドとは中世にあった職業別の組合で、フリーランス塾に当てはめると個人単位の様々な職業の人が集まっている様子からだと思いますが、それ以外にも、あくまで単なる仲良しこよしの集まりではない（同じ会社で働いているわけではないし、異業種交流会のようにメンバー間で顧客になりあう関係でもない）んだというのを的確にあらわした表現だと思いました。フリーランス塾では定期的に各業種の近況やフリーランスとしての活動を報告したり、メンバーの話から田中先生のもつ知識を合わせて生まれたその場限りの話題などから、各々がヒントを見つけ自身の活動に活かしたりするという絶妙な距離感が何よりの魅力です！

また、メンバーの中からコラボできそうなメンバーを見つけたらそこから新たな事業を生み出せたりするチャンスも。

そして、フリーランス塾は、コロナ禍を経てなおフリーランスが生き残るためにきっとさらなる進化をとげて新たな意味をもっていくはず！

フリーランスが生き残り、そして大資本に勝つために。今こそ集結しましょう！